azabu sukoyaka tsusin vol.24

麻生すこやか通信 VOL.24

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌　2013年7月

患者さまの幸せのために…

院長　村田 純一

今年も暑い季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。昨年5月に新病院に移転して1年以上が過ぎました。4台のMRIが常にフル稼働し、日夜、患者さまの診療に励んでおります。

脳神経外科の病気は万が一何かあったら命に関わる場合もあります。とりかえしがつかない後遺症が残る場合もあります。このため当院の外来では、できる限り患者さまが受診されたその日のうちに検査をして、緊急性のある病気はその日のうちに発見するように努めております。当日中に結論を出す、という信念で診療しておりますので、どうしても時間が長くかかってしまう場合があります。どうぞご容赦ください。

また、脳神経外科疾患は発症してしまってからでは回復できない場合もしばしばです。何事も早期発見が必要ですから、発症する前に原因疾患がないかどうかを見るために脳ドックを行っています。脳ドックは脳MRIや頸動脈エコー検査が基本ですが、血液検査や心電図を加えたオプションもあります。また、最近の人口高齢化に伴い、認知症を心配する方が増えています。

最近、もの忘れが気になる、あるいはご家族の方の言動が気になる…など、ご自分あるいはご家族の認知症が心配な方は、当院のもの忘れ外来を受診してください。MRIや脳血流検査（SPECT）を行い、専門家の視点から診療を行っています。

これからは暑い時期になります。脳血管疾患の予防のためには充分な水分摂取が必要です。年齢・体格にもよりますが、1日に1リットル〜1.5リットルは食事のほかに水分をとりましょう。

患者さまの幸せのために…当院スタッフは働いています。ご心配なことがありましたら遠慮なくお問い合わせください。

リハビリテーション科

移転してリハビリテーション室もとても広くなり、スタッフも増え、より充実したリハビリテーションを提供できるようになりました。患者さまからも「広くてきれい」と、お言葉をいただいています。現在、理学療法士10名、作業療法士4名、言語聴覚士1名の計15名で、発症後できるだけ早い時期から患者さまの症状に合わせた訓練を行ない、一日も早く回復して頂き、退院することを目指しています。

当院のリハビリテーション室は開院当初から理学療法を行ってきましたが、2011年5月に当院第一号の作業療法士が、2013年5月に言語聴覚士がそれぞれ入職したことで、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3領域のリハビリテーションが実施できるようになりました。

理学療法、作業療法、言語聴覚療法の違いは…？

理学療法

麻痺回復訓練や筋力訓練をはじめ、起き上がり、座位、立位などの基本動作訓練や歩行訓練、体力回復訓練を行います。

言語聴覚療法

脳卒中などにより言語機能（聴く・話す・読む・書く・計算）が低下した方への言語訓練、顔面や舌などの麻痺の影響で発話が不明瞭になったり口がもつれてしまう方への口腔構音訓練や発声発話訓練を行います。また、飲み込む力が弱くなり食事や水分でむせる時などは、どのような食事の形態や姿勢であれば安全に経口摂取が出来るかを看護師やリハビリスタッフと相談し、嚥下訓練も行っています。

作業療法

食事や着替えなどの日常生活動作をできる限り自分自身で行う事ができるように、家事やお仕事、趣味活動などその人らしい生活を取り戻すことを目標に行っています。理学療法では立位・歩行等の基本的な動作の練習を行うことに対し作業療法では、掃除や洗濯・ご飯を食べる・ボタンをかける・パソコン操作・文字を書く…等の手を使う動作が主になるため手の運動が中心になります。作業療法のコーナーを覗いてみると、机に向かい手の運動をされている方々の他に課題のプリントを冷や汗をかきながら行っている方々もいらっしゃいます。これまで行ってきた活動をするためには運動機能が回復するだけでは上手くいかないことが多くあります。見たこと聞いたことを憶えて・考えて・正確に素早く…等々、頭を使う機能も大切になってきます。作業療法ではこれらの頭の体操も手の訓練と合わせて行っています。

リハビリテーション室には明るく、和気藹々とした雰囲気があふれ、厳しい訓練をできるだけ楽しく行ってもらえるようスタッフ一同努力しています。

栄養科

当院は、平成24年5月に新築移転し、栄養科はオール電化厨房として再スタートしました。管理栄養士は4名で糖尿病療養指導士や病態栄養専門師の資格を持った栄養士が中心となり栄養サポートを行っています。調理師は、病院調理師や専門調理師の資格を持った調理師を筆頭に5名、調理補助7名とともに、食の安全に努め、満足いただける食事の提供を目指しています。

栄養科の取り組みの様子をご紹介します

食事調査

嗜好調査配布用紙

嗜好調査・喫食調査を年2回実施しています。栄養士と調理師が病棟訪問し、結果を献立や調理に生かしています。メッセージ欄には「毎日大変ですね。おいしく食べています。」「温かいおかずは温かく、冷たいおかずは冷たくと手間をかけていただき、おいしくいただきました。」「退院後は、病院のメニューを参考に気をつけていこうと思います。」など心温まる言葉をいただいています。

保温保冷配膳車
保温60度・保冷4度で設定

盛りつけの様子

ごちそうの日

季節感を大切にした『ごちそうの日』のお食事には、調理担当者のお手紙を添えています。

ご飯食
おにぎり・すまし汁・鮎の田楽・菊花大根
ひりょうずと野菜の含め煮・フルーツ
600kcal たんぱく質24g 塩分4g

全粥食
鶏の味噌雑炊・すまし汁・鮎の田楽・菊花大根
ひりょうずと野菜の含め煮・フルーツ
600kcal たんぱく質28g 塩分4g

ミキサー食
味噌雑炊・すまし汁・三色ゼリー寄せ
ポテトグラタン・オレンジの宝石箱
550kcal たんぱく質16g 塩分3g

患者さまの声

「おいしかった。」「退院祝いとなった。」「毎日の食事もおいしい。」などたくさんの声が聞こえます。

栄養サポート

栄養士は入院時から患者さまの栄養についてサポートしています。カンファレンスでは、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士と情報交換し栄養の提案をしています。調理師は患者さまそれぞれの状態に合わせて細かな調整をしながら、心のこもった食事を提供しています。

栄養相談

患者さまは退院後の食生活に不安を抱いています。退院時や外来の個人相談を行っていますが「相談して良かった」と言ってもらえる様な関わりを心がけています。「病院食を食べて、自分の味付けが濃いとわかった」「入院中に体重が減った」「参考にしたいので献立がほしい」などの言葉をいただいています。

札幌麻生脳神経外科病院
第1回「公開講座」

普段と違う?! 脳卒中早期発見の重要性

斉藤健看護科長

去る、6月14日（水）当院において『普段と違う？！脳卒中早期発見の重要性』と題し、第1回「公開講座」を開催しました。講師は、当院の病棟科長であり、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の斉藤健が担当し、脳卒中の特徴や早期治療の重要性、早期発見のポイントについて分かりやすく解説しました。参加者は70名。保健・医療・福祉・介護に携わる方々で、日頃の困りごとや対処法など質疑・応答も活発に行われました。今後も、住民の方々が安心して健康生活が送れるよう地域との連携をより一層深めていくための機会を設けたいと考えています。

アンケート結果

「早期発見のための観察ポイントがわかった！」
「職場のスタッフにも伝えたい！」　などの回答を頂きました

当院の理念・方針・患者さまの権利

病院の理念

私たちは、常に「患者さま第一」を心がけます。

病院の方針

1.高度先進医療の推進と実践　2.地域医療への貢献、啓発と実践
3.患者さまの権利擁護と尊重　4.医療従事者、学生の教育と実習

患者さまの権利

1.病気のことについて、納得いく説明を求めることができます。
2.患者さまのプライバシー（全ての情報）は厳守されます。
3.治療、検査、看護の同意について、患者さまの意思が尊重されます。

編集後記

いつのまにかお薬を処方してくれる病院は、ほとんどなくなってしまいました。7割の病院が院外処方なのです。病院にとっては、院内で処方するよりも院外処方のほうが収入は多く、経費もかかりません。でも、患者さまにとっては、院内処方は負担額が少なく、調剤薬局へ行く手間も省けます。当院はワンストップで診察・診断・処置・お薬の処方まで…。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321（代表） FAX 011-731-0559
ホームページ http://www.azabunougeka.or.jp

交通アクセス

■地下鉄：南北線 北24条駅下車
（2番・3番出口から徒歩約7分）
■中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
■中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分

携帯用サイト